

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 18 年 5 月 11 日 (2006.5.11)

【公開番号】特開 2004-300284 (P2004-300284A)

【公開日】平成 16 年 10 月 28 日 (2004.10.28)

【年通号数】公開・登録公報 2004-042

【出願番号】特願 2003-94765 (P2003-94765)

【国際特許分類】

**C 0 8 L 67/00 (2006.01)**

C 0 8 L 101/16 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 67/00 Z B P

C 0 8 L 101/16

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 3 月 16 日 (2006.3.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】共重合ポリエステル樹脂のカルボン酸成分全体に対し、乳酸残基 (A) 成分 5 ~ 90 モル %、芳香族カルボン酸残基 (B) 成分 5 ~ 70 モル %、乳酸を除く脂肪族カルボン酸残基 (C) 5 ~ 90 モル % を含有し、(A) + (B) + (C) = 100 モル % としたことを特徴とするポリエステル樹脂を含有する生分解性ポリエステル水性分散体。

【請求項 2】塩基性化合物を含有することを特徴とする請求項 1 に記載の生分解性ポリエステル樹脂水性分散体。

【請求項 3】ポリエステル樹脂の数平均分子量が 4000 以上であることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の生分解性ポリエステル樹脂水性分散体。

【請求項 4】ポリエステル樹脂のガラス転移温度が 25 よりも低いことを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の生分解性ポリエステル樹脂水性分散体。

【請求項 5】請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の水性分散体を含有してなるコーティング剤。

【請求項 6】請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の水性分散体を含有してなる接着剤。

【請求項 7】請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の水性分散体を含有してなるバインダー。

【請求項 8】請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の水性分散体を含有してなるインキ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

すなわち、本発明の要旨は、共重合ポリエステル樹脂のカルボン酸成分全体に対し、乳酸残基 (A) 成分 5 ~ 90 モル %、芳香族カルボン酸残基 (B) 成分 5 ~ 70 モル %、乳酸を除く脂肪族カルボン酸残基 (C) 5 ~ 90 モル % を含有し、(A) + (B) + (C) = 100 モル % としたことを特徴とするポリエステル樹脂を含有する生分解性ポリエステル水性分散体である。また、前記水性分散体を含有してなるコーティング剤、接着剤、バインダーまたはインキである。